

農村プロデューサー養成講座の実施状況

令和3年12月10日

農村振興局

MAFF

Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries

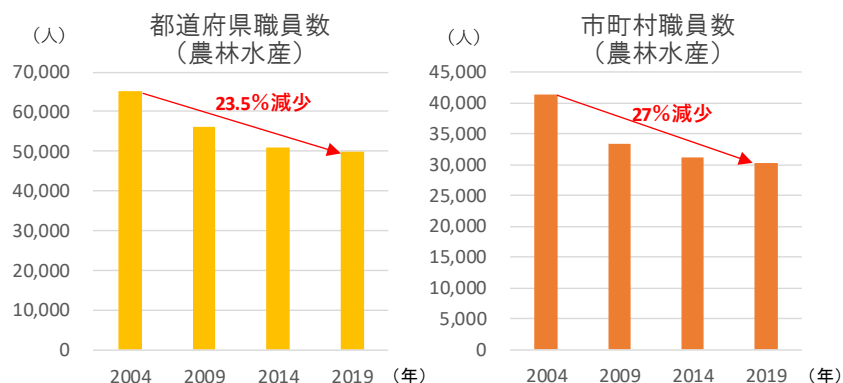
農林水産省

『農村プロデューサー』養成講座 とは？

- 『農村プロデューサー』とは、
 “地域への愛着と共感を持ち、地域住民の思いを汲み取りながら、地域の将来像やそこで暮らす人々の希望の実現に向けてサポートする人材”のこと。

『農村プロデューサー』養成講座を開講する背景

都道府県・市町村の職員が減少する中で、
地域に寄り添う人材の必要性が増大。



※ 一般行政職員数も15年間で10%以上減少。

（出典）総務省「地方公共団体定員管理調査結果」から作成。（一部事務管理組合の職員を除いている）

- 地域づくりに決まった答えはありません。
- だからこそ、地域に寄り添ってサポートする人材が今、全国各地で必要なのです。
- 本講座は、一方通行的な講義による知識の習得よりも、演習や実践活動による現場力アップを重視します。
- 本講座の修了生（『農村プロデューサー』）がネットワークでつながり、支え合っている環境を整えることで、全国各地の人材同士の連携も深めていきます。



（イメージ）地域住民と農村プロデューサー

講座の種類

以下の2種類のコースで構成。

① 入門コース

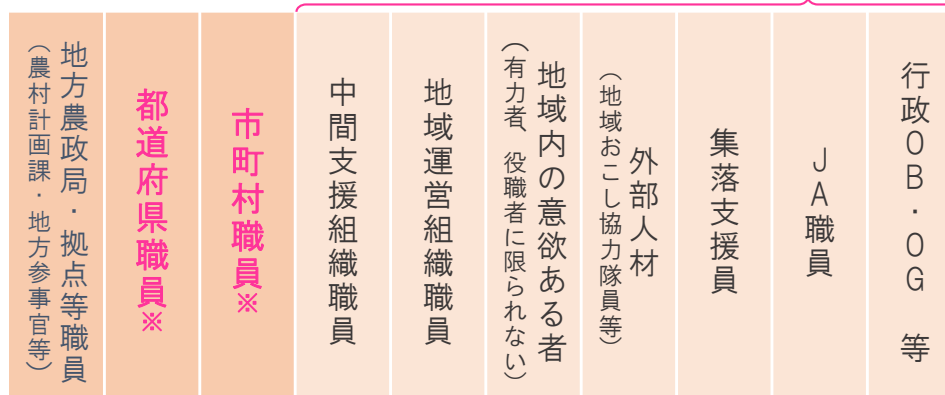
地域づくりに関心のある者が幅広く参加可能な
 オンライン講演。

② 実践コース

地方自治体職員及び地域づくりに意欲がある者等を
 対象として、事例を基にした模擬演習や地元での実践を通じ、地域づくりをプロデュースする者を養成。

（参考）実践コースの受講対象者

地域づくりに意欲がある者



⇔ 主な研修対象

⇔ 主な研修対象ではないものの、受講可

※ 地方自治体職員として、農林水産、社会教育、福祉、地域共生社会、企画等の部局の職員、地域担当職員、農林水産普及指導員（都道府県）、農業委員・農地利用最適化推進委員（市町村）等を想定

『農村プロデューサー』養成講座 カリキュラムの概要（令和3年度）

- 「入門コース」「実践コース」の2種類のコースで構成。さらに、研修修了生（実践コース）と講師陣をつなぐネットワークを構築。
- オンライン形式（主にライブ配信による講義や演習）も併用し、実例を基にした模擬演習や研修生自らの実践活動による現場力アップを重視。

『農村プロデューサー』養成講座 ～地域に消えない火を灯せ～

1. 研修の目標

- ・ 農山漁村地域における、創意工夫にあふれる地域づくりの取組内容を学ぶことにより、地域づくりの実践に向けたプロセスを習得。

2. 主な内容

オンライン講演（ライブ配信）

- ・ 活動内容や成果、動機等を通じ、地域づくりのワクワク感を体感。

『農村プロデューサー』入門コース（定員なし）

- ・ 地域づくりに造詣の深い者等を講演者（講演者は毎回交代）とした、オンライン上の講演。ライブ講演中にチャットで双方向のやりとりが可能。
- ・ 月3回、90分程度（全6回）。

3. 受講対象者

- ・ 地域づくりに関心のある者が幅広く参加可能。
- ・ 実践コースの受講希望者は、入門コースを受講することが望ましい。

1. 研修の目標

- ・ 地域への愛着と共感を持ち、地域住民の思いを汲み取りながら、地域の将来像やそこで暮らす人々の希望の実現に向けてサポートできる人材（農村プロデューサー）を養成。

2. 主な内容

（1）オンライン講義（ライブ配信）

- ・ 地域及び地域住民に関する現状把握や分析手法、実践に向けたロードマッピング等の基礎を学ぶ。
- ・ 地域づくりに造詣の深い者を講師とした、オンライン上の講義。ライブ講義中にチャットで双方向のやりとりが可能。
- ・ 月2回、90分程度（全4回）。

（2）対面講義（実例を基にした模擬演習等）

- ・ 実例を基にした模擬演習等により、（1）で習得した手法を現場で実践するためのトレーニングを実施。研修生同士の連携も推進。
- ・ 2泊3日、3地方会場で開催。

（3）研修生自らの実践活動（オンラインゼミ＋実践）

- ・ （2）で学んだ内容を基に、研修生（グループも可）が講師と相談の上活動のテーマを決定し、地元で実践。
- ・ 農村プロデューサーに求められるポイントを、現場レベルで企画・実践し、その成果を題材として、実施前後のオンラインゼミで解説。

『農村プロデューサー』実践コース（30人程度）

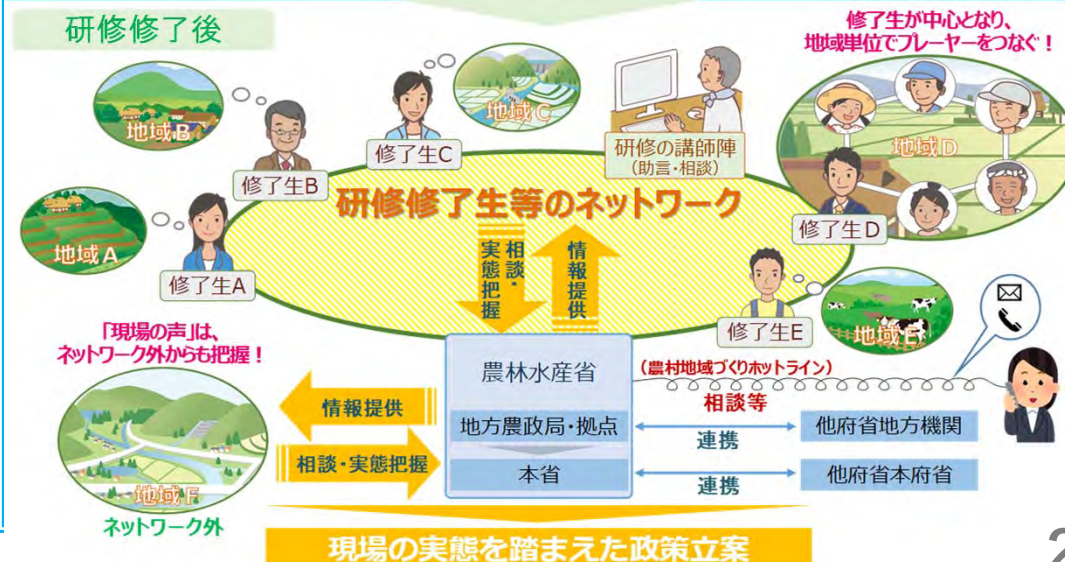
- ・ 成功につながるポイント、現場が動き出すポイントなどを探り学ぶ。
- ・ 月1回、90分程度（全2回）。

3. 受講対象者

- ・ 地方自治体職員※及び地域づくりに意欲がある者等を想定。

※ 地方自治体職員として、農林水産、社会教育、福祉、地域共生社会、企画等の部局の職員、地域担当職員、農林水産普及指導員（都道府県）、農業委員・農地利用最適化推進委員（市町村）等を想定

ネットワークへの参画希望者



新しい研修スタイルの提案及び実施スケジュール（予定）

- 実践コースでは、「型にはまった地域づくり」を目指すのではなく、「その地域に合致した地域づくり」を考えるスタイルを目指していく。
- 「オンライン講義」「実例を基にした模擬演習」「研修生自らの実践活動」の3ステップで、個々の研修生の現場力アップをフォロー。

新しい研修スタイルの提案（実践までを段階的にフォロー）

これまでの研修スタイル



研修で学ぶ内容は有意義だが…



すぐに地域で実践するにはハードルが高い場合も

研修から実践までの段階の段差が高すぎる可能性。

新しい研修スタイル



実例を基にした模擬演習によりオンライン講義で学んだことを実践に移すためにトレーニング



講師のフォローを受けながら研修生自ら実践活動にチャレンジ
研修修了後の活動を支えるネットワークも構築



現場力を段階的に身に付けるためのきめ細やかな段階を用意！！

実施スケジュール（予定）

令和3年度の実施スケジュール（予定）は下記のとおり。

令和3年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
入門コース (オンライン講演)		全6回											・実践コースの募集期間 6月28日～7月16日 ・実践コース（2）の会場は 地方農政局の会議室を予定 ・感染症拡大等により、 スケジュールが変更となる 可能性あり。
実践コース（1） (オンライン講義)						全4回							
実践コース（2） (実例を基にした模擬演習)						仙台 会場	20～22日 岡山 会場	15～17日 熊本 会場		11～13日 仙台 会場			
実践コース（3） (研修生自らの実践活動)						延期			オンラインゼミ 全1回	研修生 地元で実践	オンラインゼミ 全1回		
研修修了生等の ネットワーク										ネットワーク 構築へ			

『農村プロデューサー』養成講座 講演者・講師の紹介

- 令和3年度は、「入門コース」（参加自由）を5月から、「実践コース」（定員制）を9月から開講。
- 「実践コース」は、ホームページ上にある実践コース受講申込書でダイレクトに応募可能。（募集期間6月28日～7月16日）

入門コース 講演者（オンライン講演）

6つの分野別に、講演者それぞれから地域づくりに関する取組内容を学ぶ。

第1回 【総論分野】

令和3年5月11日（火）19:00～



東京大学助教授等を経て、2006年より現職。専門は、農村政策論、地域ガバナンス論。国内外の農山村地域を歩き、集落レベルから国の政策レベルまでの実態を研究し、政策提言を行っている。
著書：『農山村は消滅しない』（岩波新書）、『農村政策の変貌』（農文協）など多数。

明治大学農学部教授 小田切 徳美 氏

第2回 【イノベーション分野】

令和3年5月20日（木）19:00～



ビジネスプロデューサー。外資系戦略コンサルティングファームを経て現職。国内最大級の地方創生イニシアチブプラットフォーム「INSPIRE」を立ち上げ、超絶まちづくりの集合知を社会にシェアしている。
著書：『最強の縄文型ビジネス』（日本経済新聞出版社）

一般社団法人
INSPIRE代表理事/BBT大学教授 谷中 修吾 氏

第3回 【行政分野】

令和3年5月31日（月）19:00～



元茨城県東海村職員。自治推進課長、農業委員会事務局長等を歴任。退職後の現在は、（一社）全国農業会議所専門相談員として、農業を通じた持続可能な地域づくり（人・農地プラン）の策定・推進アドバイザーとして活躍中。自らの失敗談を交えた具体的な事例や、地域との合意形成の手法等が好評を得ている。

地方考夢員®研究所 所長 澤畑 佳夫 氏

第4回 【民間分野】

令和3年6月8日（火）19:00～



地域社会の役に立つという全社の大戦略のもと、感じ良い暮らしと社会に向かって各地の地域活性化案件を手掛ける。
草の根の地域活動から行政や地域企業との協定締結など、お店のプロデュースのみならず、街づくりまで関わっている。

株式会社良品計画ソーシャルグッド事業部
スペースグッド担当部長 河村 玲 氏

第5回 【都市農村交流分野】

令和3年6月16日（水）19:00～



地域の短期的・季節的な人手不足で困る収穫時の農家等と、農業や地域に興味がある地域外の若者をマッチングする webプラットフォーム「おてつたび（お手伝い×旅）」を運営。お手伝いを通じて自分にとって好きで堪らない特別な地域が出来る、そんな“新しい旅”の形を提案している。

株式会社おてつたび代表取締役 永岡 里菜 氏

第6回 【地域実践分野】

令和3年6月24日（木）19:00～



大学卒業後、経営コンサルティング会社に勤務し、組織開発、人材育成などの分野に携わる。2010年、家族とともに新潟県十日町市池谷集落へ移住。地域おこし協力隊として活躍。地域の活動団体をNPO法人化させ、現職。
著書：『奇跡の集落～廃村寸前『限界集落』からの再生』

特定非営利活動法人地域おこし事務局長 多田 朋孔 氏

実践コース 講師（オンライン講義+対面講義）

講師は2名体制。事例を基にした模擬演習や地元での実践を通じ、現場力をアップする。



2021年3月に山形県庁を定年退職。在職中は、一貫して農村の生産基盤と生活環境の整備に取り組む。
事業の計画や実施に合わせ、地域の真の課題の見極めと、解決に向けた合意形成手法や話し合いと解決の道を探ってきた。県内外1,000以上の事例と向き合い、地域に誇りを取り戻すための「地域づくり」を展開している。

農村着火型プランナー 高橋 信博 氏



2018年に愛媛県庁退職。在職中は、協働自治による行革、地域包括ケア・虐待防止、地域担当職員として地域に深くかかわる。
2014年4月から3年間、地域活性化センター派遣となり、全国の地域人材育成と地域づくり伴走支援に従事。
現在は、フリーランスで課題解決から価値創造思考への転換や、人をつなぐ人材育成を行っている。

一般財団法人 地域活性化センター
人材育成プロデューサー 前神 有里 氏

オンライン講義



対面講義



実践コースでは、オンラインと対面を併用した研修スタイルを実施！

農村プロデューサー養成講座の実施状況①

- 入門コースは延べ3,590名（6講座の合計）、実践コースは3会場で44名が受講。
- 受講生からは本研修が大変有意義であるとの声が寄せられているほか、本研修を受けて地域の人材育成研修が開催されるなどのつながりが生まれている。

入門コース 受講者実績

日 程	研 修 科 目	延べ受講者数
5月11日～ 6月24日	①総論 ②イノベーション ③行政 ④民間 ⑤都市農村交流 ⑥地域実践	3,590名 （録画配信分を含む）

実践コース 受講者実績

項 目	日 程	会 場	受講者数
オンライン 講義	9月 3日(金) ～22日(水)	オンライン 全4回	44名
対面講義 (3会場)	10月20日(水) ～22日(金)	岡山	14名
	11月15日(月) ～17日(水)	熊本	16名
	1月11日(火) ～13日(木)	仙台	14名 (予定)
(実践活動)	(12月以降)	(各地域)	(今後予定)

受講者の声(実践コース)

- やってみたいと思うアイデアがたくさんあり、これから自分がやるんだ！という力をいただいた。(30代、地域おこし協力隊)
- 適切な仕掛けを行うことで、ひとの心に「火」をつけることができるという実感を持つことができた。(40代、市職員)
- 現場で住民とワークショップをする前に、プロデューサーとしてこれほどの準備をやっておかねばならないことに対して驚いた。本気で向き合う時間も手間もかけねばならないのだ！と認識を改めた。(50代、県職員(普及指導員))
- 今回できた人脈(つながり)を大切に、壁にぶち当たった時に相談したい。(20代、市職員)
- 全国のみなさんが、それぞれのフィールドで活躍されており、その中の課題や成功体験など共通の「あるある」を話せたのはとても良かった。地域づくりの悩みは「人」であり、喜びもまた「人」に尽きると思った。(30代、県職員)
- 農村プロデューサーとしての目線を持つことは、意識しなければできないことだと感じた。このような研修を受けたことを地域の仲間と共有したい。(30代、古民家宿経営、地域づくりNPO)
- 一緒に研修を受けている方の熱い思いを感じる良い機会になった。(50代、県職員)
- 地域づくりの一連のプロセスが見える講座を受講できたことは大変勉強になった。研修で学んだ農村プロデューサーの役割を意識しながら、活動していきたい。(60代、市職員OB)



実践コースの開催状況

- 本養成講座(入門コース)の講師が、岡山県笠岡市の地域づくり人材研修で講義を実施。(入門コースの内容が、市のまちづくりの方向性に合致するとして、講師依頼)

かさおかイノベーションリーダー養成塾

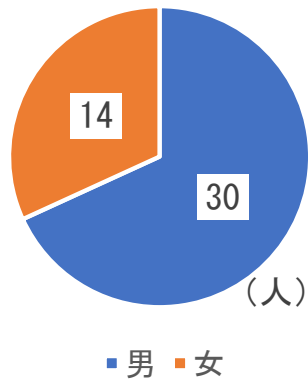
次世代の地域づくりを担う人材の育成を目的とし、令和2年度から開始。今年度の塾生は16名。卒業生には市総合計画審議会委員等として参画してもらうなど市施策へのフィードバックを期待。



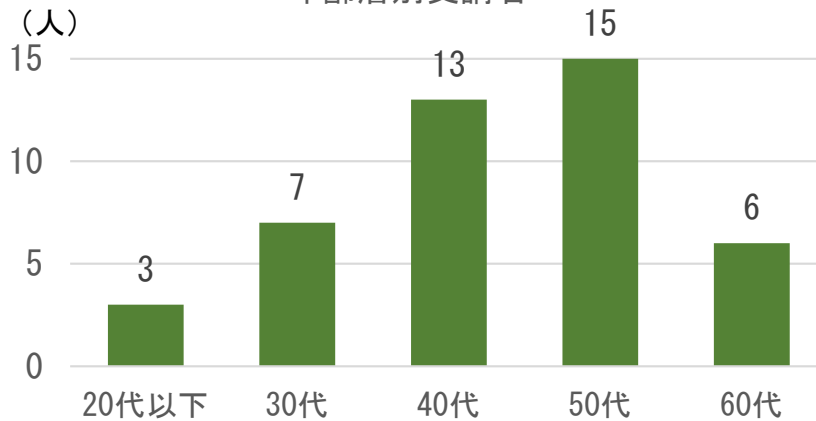
農村プロデューサー養成講座の実施状況②

- 実践コースの受講生は、今年度は全国3か所（岡山、熊本、仙台）での開催であったため、会場周辺の地域に偏っている。
- 主な研修対象とした地方自治体職員が約7割を占めるが、その他の地域内外で地域づくりに意欲がある者も受講している。

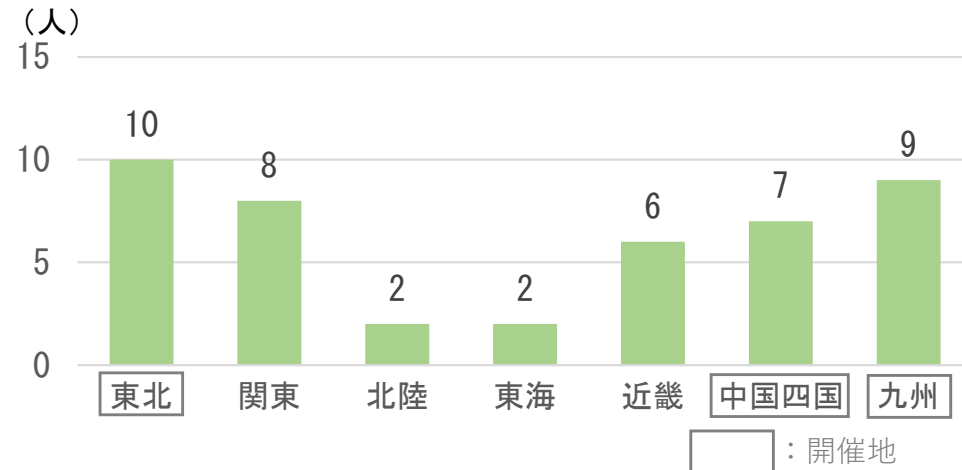
男女別受講者



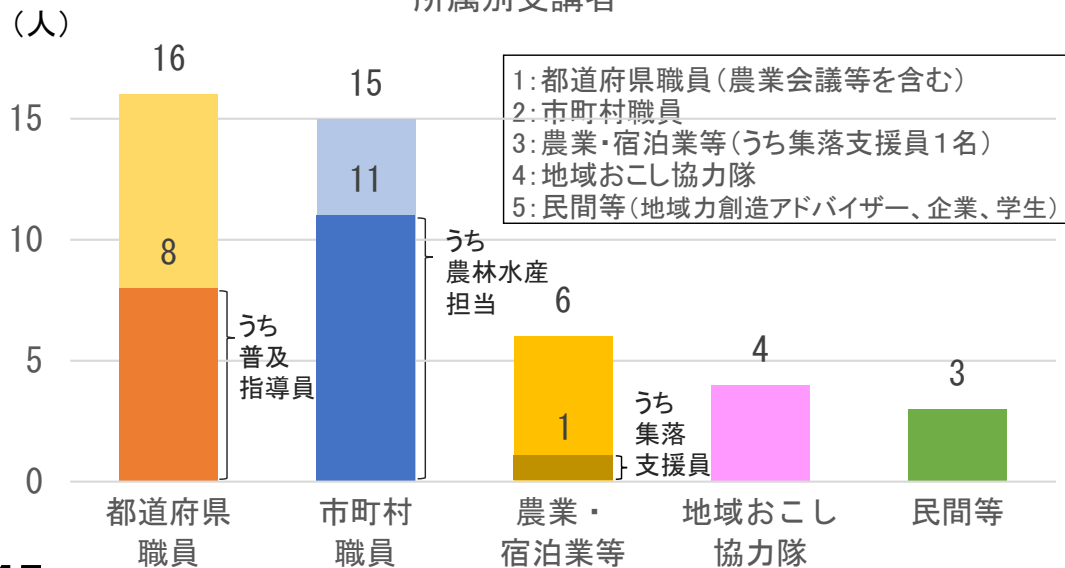
年齢層別受講者



地域別受講者



所属別受講者



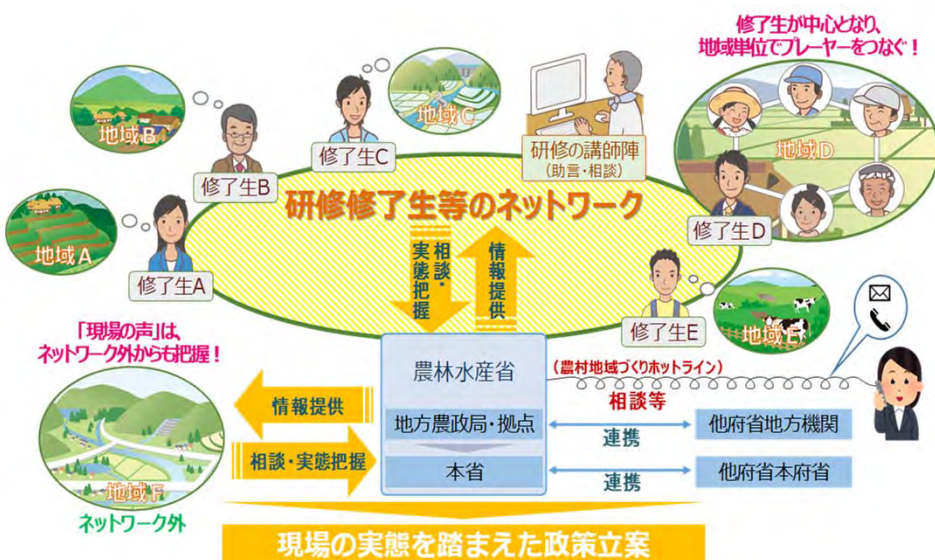
検討会における主な指摘（抜粋）

- ・ 都道府県に置かれている普及指導員は、営農技術指導はもちろんのこと、地域において大きな役割を果たしており、地域政策の中でもその役割をしっかりと評価し、活躍できる環境を整えていくべきである。
- ・ 地域おこし協力隊の方々には、経験値やコミュニケーション能力も高く、彼らのように外部の者が地域の中に入り、様々な生業に携わりながら実際に動いていくことに意味がある。

講座修了生等のネットワーク

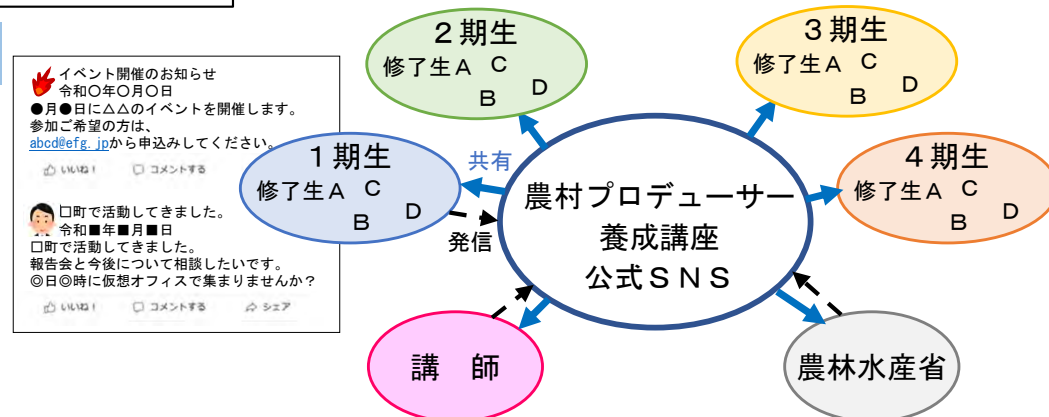
- 修了生同士が支え合いながら活動できる環境を整備するとともに、講師や農林水産省もネットワークに参加することで、地域づくりを後押しする情報提供や相談対応を行いつつ、現場の実態把握機能を強化。
- ネットワークは仮想オフィスとSNS(ソーシャルネットワークサービス)の活用を検討。

ネットワークの概要



ネットワークイメージ

SNS



仮想オフィス

現実空間のようにアイコンが近いもの同士で会話ができる

報告会や複数人での会話、リアルタイムでの情報共有等を行いたいとき



検討課題

- ネットワークへの参画ルール(情報セキュリティ、システム利用規程等)の整備
- ネットワークにおける活動を活性化させるための方策の検討(活動内容の企画、定期的な情報提供、フォローアップ研修等の実施等)
- ネットワーク内外から把握した現場実態についての政策立案への反映